

## 「知事とのフレッシュトーク」(平成30年9月18日(火) 青森県立八戸西高等学校) 概要

知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行う「知事とのフレッシュトーク」について、県立八戸西高等学校での実施概要をお知らせします。

学校紹介とスポーツ科学科生徒によるダブルダッチ、ダンスが披露された後、代表生徒4名と知事が意見交換を行いました。(参加：全校生徒593名)

### ○発言生徒1(3年・女子)

私には3歳と5歳離れた二人の兄がいます。一番上の兄が小学生だった時、一学年の児童数はおよそ120人、二番目の兄の時はおよそ100人、私の時はおよそ80人でした。子どもたちが減ることで地域はだんだん静かになって、活気もなくなっているような気がします。その一方で、人口が多い都会では、最近待機児童の問題が深刻になってきています。



そこで提案なのですが、青森県が先陣を切って、待機児童で困っている家族に働きかけ、青森県に定住してもらおう仕組みを作ってはどうか。青森県は自然が豊かで空気がきれい、安くて広い土地がある、おいしく新鮮な食材がある、学校に広い校庭があることなど、全面的にアピールすべきだと思います。さらに教育の質の向上、公園の整備、まちおこし、企業誘致などにも取り組み、子育てだけでなく、仕事や生活の面からも都会の人たちが安心して青森県に来られるようにすればよいと思います。

そこで質問ですが、現在、青森県にIターンやUターンで来た世帯はどれくらいありますか。また、そのための政策として、どのようなことをしていますか。

### ○知事

いい質問だと思います。ありがとうございます。UIJターンだけではなく、君たち高校生にこそ青森県の良さを分かってほしい、はっきり言えば、東京にこれ以上行かないでほしいということで、毎年県内各高校の2年生全員に、青森の良さをPRする冊子を配っています。

### ○企画政策部企画調整課職員

青森県は18歳、20歳、22歳で県外に転出する人が多くなっています。これは高校や大学を卒業して、就職や進学で県外に出る人が多いということが背景です。

県内で暮らす、働くという魅力をよく知ってほしいということで、皆さんにも「アオモリドラゲナイⅢ」という冊子を配布しています。例えば、待機児童の話は6ページに書いていますが、実は青森県の待機児童はゼロです。通勤時間の短さは全国第6位です。東京に行けば毎日満員電車で通勤しなければなりません、青森県ではそんな苦労もありません。通勤費用も安く済みます。

また、大変重要な働く場所ですが、県外や海外から観光客を呼んできたり、農産物などを県外に売ったり、海外に輸出したりして、地域で経済を回して、若い人たちが地元で働けるように、取組を進めているところです。

高校生やその保護者の皆さんに、青森県で暮らすことの魅力を理解していただきたいと、このような冊子などを使って一生懸命PRしているところですので、皆さんも今日家に帰ってからでも、ゆっくりご覧になっていただきたいと思います。

## ○知事

私が知事になった当時は、有効求人倍率も 0.29 でした。その後少し良くなったと思ったら、リーマン・ショックがあって壊滅的に悪くなってしまいました。そこで即効性のある企業誘致などに取り組み、これまで 450 ほどの企業誘致と 6,000 人ほどの雇用創出をしたほか、「攻めの農林水産業」を行って農業経済を改善し、農業所得を 2 倍に伸ばしました。農家をやっているだけでも食っていけるように、若い人たちが帰って来られるようにするためです。

土日は大手量販店にセールスに行き、月曜日や金曜日は企業回りということをやってきました。先週も木曜日と金曜日に名古屋と大阪で 12 社回りました。とにかく働く場所がなければ若い人たちが残ってくれません。

知事になった当時は、高校生の働く場所を確保するために、むしろ高校の先生方に東京の企業などに行ってもらい、どんどん県外に若い人材を送り込みました。なぜなら本当に県内に働くところが少なかったからです。でも今は県内に企業も集めましたし、起業創業とあって、自分たちで会社を始める人も年間 130 人近くに増え、農業所得が増えたからこそ U I J ターンによる農業就農者も増えてきました。

でも今でも 4～5 割くらいの高校生が卒業後県外に出て行っています。その気持ちは分かります。私もそうでした。特に工業高校ではつい最近まで県外：県内の就職割合が 8：2 でした。それを何とか 7：3 に戻し、今は 6：4 近くまでになっています。

では、いかに帰ってきてもらうかという取組について担当から説明します。

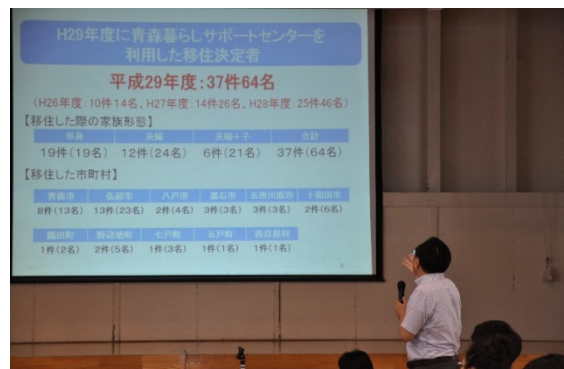
## ○企画政策部地域活力振興課職員

移住促進のことをお話しします。移住交流サイトやパンフレットでの情報発信などいろいろやっていますが、東京の有楽町にある「あおもり暮らしサポートセンター」では、青森県に帰って来たいという方に対して、暮らし、仕事、住まいなど親身になって相談に乗っており、平成 26 年度は 79 件、27 年度は 254 件、28 年度は 681 件、29 年度は 879 件と移住相談も増えています。

## ○知事

今までは製造業や医療・福祉など、仕事の相談を別々にやっていましたが、一緒に相談に乗るように変えました。U I J ターンの場合、子連れのご家族やご夫婦で戻って来られる方が多いのですが、旦那さんや奥さんの資格や職種も違うということもあるからです。職場も住まいの近くにしたいとか、そのような相談にもきめ細かに対応しています。

把握している移住者数は、あおもり暮らしサポートセンターを経由した数字なので、少なく見えるかもしれませんが、実感として U I J ターンはとも増えています。特に農業の U I J ターン就職は、農業所得が向上したこともあってとても増えてい



ます。農業だけでなく、コーヒーのロースターやトリマー、ネイルアートなど、青森県で始められる職種の幅も広がっています。

### ○企画政策部地域活力振興課職員

首都圏では「青森県合同移住フェア」もやっていて、8月25日に開催し、知事にも来ていただきました。

### ○知事

合同というのは、各産業や市町村も一緒に、という意味です。

### ○商工労働部労政・能力開発課職員

県内大学と県外大学別に見た青森県内への就職率はどれくらい分かりますか？実は、県内大学だと約5割ですが、県外大学だと、仙台では3割、東京では1割しか青森県内に就職しないというデータがあります。皆さんには県外に行っても是非青森県に戻ってきてほしいので、例えば八戸市では、ものづくり、食産業など、IT企業、コンタクトセンターなど地元がたくさんありますので、是非就職の際は地元企業のこと調べていただきたいと思います。

こうした企業の情報は、県でもガイドブックを作成したり、サイトで紹介したりしているほか、「青森で働くべえ」というツイッターやLINEもありますので、皆さんも東京に行く前に登録してもらえれば、東京に行ってからでも青森県内の企業情報を受け取ることができます。東京に行ってしまうと我々から皆さんに情報を発信する手段が少なくなってしまいますが、いろいろ教えたいので、登録もお願いしたいと思います。

あと、東京には「あおもりUIJターン就職支援センター」もあります。県外の大学に進学した大学生の県内企業へのインターンシップ、県内企業への就職活動の際の交通費助成などもやっていますので、ご活用くださればと思います。また、青森県で生き生きと働いている女性の方々による「あおもりなでしこ」で、女性だからこそ青森県で輝けるというPRもしています。

昨年度はUIJターン就職した方は57名でしたが、これからもどんどん増やしていきたいと思えます。

### ○知事

3年生にお話を伺いましょう。

(知事が3年生に将来の夢を聞く)

今、企画部門、営業部門はすごく不足しています。AIを開発している某企業など、特に八戸市は伸びていますし、ドローンで何をするかという企画もこれから大事になってきますので、大いに期待しています。



## ○発言生徒2（3年・女子）

私には姉が2人いて、それぞれの姉に子どもがいます。昨年8月、一番上の姉が女の子を出産しました。その時姉は、お金を切り詰めて新しいチャイルドシートを買っていました。ところがその直後、親戚のおばさんから「使わないチャイルドシートがあったから譲ったのに」と言われ、私ももったいないと思いました。

そこで、使わなくなったチャイルドシートや赤ちゃんの沐浴用のバスタブを回収し、経済的に困難な家庭

に譲ったらいいと思いました。チャイルドシートやバスタブは粗大ごみに分類され、捨てる側も「もったいない」と思いながら捨てているはずですが、そうしたものを家庭で再び使用することで、3Rの循環が生まれてくると考えています。

現在、青森県のリサイクル率は15.3%で全国41位です。目標としてリサイクル率25%を掲げていますが、私が住んでいるおいらせ町では22%、姉が住んでいる八戸市では13.8%と、目標にはまだ届いていません。チャイルドシートやバスタブなど、赤ちゃんに必要なものを再利用することで、リサイクル率の向上にもつながります。もったいないという精神を活用し、環境だけでなく、人の生活も救えるシステムを作ってほしいです。



## ○知事

発言が真っ直ぐだし、みんなのことを考えてくれている。世の中のことを真剣に考えてくれて、一緒に怒ったり泣いたりできる素直な人間になると思います。素晴らしい。

さて、知事就任以来十数年、公約に掲げてきた項目の中で、例えば平均寿命はまだ最下位だけど改善幅が良いのでいずれ上がるだろうし、健康寿命の方は男性30番台、女性は20番台と努力が報われつつあります。しかし、この3R分野に関しては、なかなか成果が上がりませんでした。ずっとショックだったのですが、4年前「雑紙回収チャレンジ」というのを始めてから良くなってきました。

## ○環境生活部環境政策課職員

本県の1人1日当たりのごみ排出量は1,004gで全国第42位ですが、ここ3年連続で大きく改善しており、全国との差も縮めています。リサイクル率は平成26年度に最下位だったのですが、今では41位まで上がってきました。雑紙回収や資源回収などの地道な活動がようやく数字に現れてきたところですが、まだ全国平均を下回っているのも、まだまだこれからという状況です。

3Rのうち、リデュース（Reduce）はごみになるものを減らすということ、リユース（Reuse）は繰り返し使うということ、リサイクル（Recycle）は資源として再び利用するということです。リサイクルだけではなく、リデュースやリユースから大事なことです。

「もったいないあおもり県民運動」という取組を行ってきましたが、その一環でレジ袋の削減があります。今ではスーパーにマイバッグを持っていくことが普通の行動になっていると思いますが、今では年間1億枚以上のレジ袋が削減されています。その他、古紙や衣類の回収も行っています。

今、重点的に取り組んでいるのが紙ごみと生ごみです。新聞以外でもお菓子の箱、ティッシュの箱など細かい紙もリサイクルできます。生ごみは一般家庭から出るごみの約半分が生ごみですが、食材は使い切る、料理は食べきる、生ごみは水気をきるの「3つのきる」が大切です。

## ○知事

弘前市で水きり運動したら 1,000 万円くらい処理経費が浮いたんですよ。少し水を切るだけで焼却量が減るんです。生ごみの水切り器も作って販売しました。

## ○環境生活部環境政策課職員

そうですね。生ごみは非常に水分が多いので、水気をきるだけで焼却量も減りますし、燃やす際のエネルギーも少なく済みます。

「COOL CHOICE あおもり」という運動もしています。当課では地球温暖化対策も行っています。3Rも温暖化対策につながる取組ですが、「COOL CHOICE」とは「賢い選択」という意味で、全国的に行われています。

子育て支援という形では、例えばフリーマーケットで子ども用品を出品したり、市町村によってはチャイルドシートの無料貸し出しを行うところもあります。鱒ヶ沢町では家庭での使用済みのベビー用品を回収して、希望者に無料貸し出しを行っています。

## ○知事

とてもありがたい提案いただいたので、行政システムとして、介入ではなく、NPOなどが立ち上がるような仕掛けで応援できないかということを持ち帰ってみたいと思います。来年度の新規事業でどうかは分かりませんが、市町村ごとの温度差もあるけれど、そういうことをしてみませんかと提案するとか、やっているところがないか調査してみるとか、少し考えてみたいと思います。

## ○発言生徒3（3年・男子）

私は将来、高校の体育教員になりたいと思っています。理由は陸上競技部の顧問として指導を行い、全国大会に出場する強い選手を育て、青森県に恩返しをしたいと考えているからです。

私は高校入学後、県の強化指定選手に選ばれました。県の強化費で沖縄県での合宿や東北ブロックでの合宿に参加させていただき、技術指導だけでなく、トップアスリートの方々からアドバイスを受けることもできました。そのお陰で今年の8月、三重県で開催されたインターハイに出場することができました。

私は高校1年生の時に、岩手県で開催された国体に出場することができました。初めて参加した国体ということもあり、すごく緊張したことを覚えています。国体は2025年には国民スポーツ大会と名称が変わり、青森県で開催されることをニュースで知りました。私は青森県で開催されるその国民スポーツ大会に選手として出場したいと考えています。

そこで知事に質問ですが、県として2025年の国民スポーツ大会に向けて、青森県の選手が活躍するために、どのような強化策をお考えでしょうか。



## ○知事

よく聞いてくれました。

法令が変わって「国体」から「国スポ」に名称が変わりました。県議会に名前の変更の条例案を出すのですが、その「国スポ」に備えた取組をお話しします。

## ○教育庁スポーツ健康課職員

7年後の2025年に青森県で行われる第80回国スポに向けていろいろ準備を進めています。名称は第78回佐賀大会から変更になります。

これまでの青森県の成績を見てみますと、1977年に本県で開催した第32回あすなろ国体では男子総合で第1位の天皇杯を獲得しています。女子総合でも第2位でした。それ以降は約30年に渡って天皇杯で20位台を維持してきましたが、第67回大会では40位と順位を下げています。第69回大会では過去最低の43位でした。昨年の第72回愛媛国体では4大会ぶりに30位台となりましたが、団体種目で点数が高いので、団体種目で上位に入ると、順位も上がる傾向にあります。

県では昨年6月に競技力向上対策本部を設置し、今年1月には競技力向上基本計画を策定しました。目標は天皇杯と皇后杯の獲得とし、4つの柱に沿って計画を進めています。

1つ目は、競技団体等の組織体制の強化・充実を目的とした推進体制の確立、2つ目は、ジュニア選手やトップレベル選手の発掘・育成、3つ目として指導者の養成・資質向上を図るための指導体制の確立、4つ目として、競技環境の整備・充実といった諸条件の整備としています。

計画も、「育成期」「充実期」「飛躍期」「定着期」と4つに分けており、大会終了後も高い競技水準を維持するためには、県内で練習して全国や世界で活躍した選手が、次には指導者となり、次世代の選手を育成するという好循環を作り出すことが、競技力を維持していく方法です。こうしたことで、本県が目指すスポーツが盛んな県につながっていきます。

将来は体育教員になりたいということですが、私も35年ほど前、あなたと同じ思いで教員になりました。第80回大会では是非本県選手として出場できるよう、大学に行っても全力で取り組んでください。将来は本県の体育教員になって、今度は是非母校の後輩たちの育成に携わってほしいと思います。

私が教育庁に勤務し始めた時に驚いたのは「人財」という字です。知事はこの字を使っています。皆さんこそ財（たから）の人財です。

## ○知事

3年生として2年生に勧めたいトレーニングは何ですか。

## ○発言生徒2

基礎体力の強化と自分の生活面を見直すことです。

## ○知事

生活習慣の改善ということだね。

次のテーマに出てくるのですが、青森県の場合、40～50代に体を壊し、失われていく命が多いので、短命県になっています。100歳を超えた人が多いとか、長生きする人も多いのだけれども、40～



50代をいかに生き残れるかです。そのためにはスポーツをしてほしいと思います。国スポを目指すだけでなく、それぞれの健康のために、卒業しても何か運動をしてください。そして将来の夢のために勉強してください。

#### ○発言生徒4（3年・男子）

私は将来中学校の体育教師になり、体育を通じて子供達に体を動かすことやスポーツの魅力を伝えたいと考えています。

私たちが住む青森県は日本で一番の短命県です。その原因の1つとしてスポーツ活動率の低さがあげられると思います。小さい頃から大学までスポーツを続けても社会人になるとスポーツと疎遠な生活になりがちです。もっと多くの人に自分の家の近くの運動施設を使ってもらったり、スポーツを体験してもらったりするべきだと思います。そのためには県でポイントカードを作成し、県民が地域で行われるスポーツ講習を受けたり運動施設を使ったりすることでポイントがたまり、県内のあらゆる店舗で利用が可能な商品券やクーポンに交換できる制度を作ってみてはどうでしょうか。



それに加え、県で塩分濃度測定器と専用アプリを開発してみてはどうでしょうか。各家庭で味噌汁などの食事の塩分濃度を測定してもらいます。それを青森県民だけの専用アプリで記録し、塩分濃度を点数化することで減塩に対する興味関心を持ってもらえれば、青森県が推奨している「だし活」や減塩商品の利用促進に繋げていけるのではないのでしょうか。

これらによってスポーツをする人が増え、生活習慣病による死亡率が減少すると思います。

#### ○知事

健康、命という大事な意見をいただきました。今日この後、八戸市内でだし活と糖尿病対策のダンスをすることになっていますが、このダンスは、吉本興業からシェフラン賞と全国部門グランプリをいただいたものです。ではこれから、学校紹介でのダンスの御礼に「だし活」ダンスを御披露します。



（「だし活」ダンス振り付け説明とダンス披露）

こういうダンスを通じて5年間減塩をPRしていたら、県民の方も健康に気を使ってくれるようになって、平均寿命はまだ最下位ですが、健康寿命はとても改善しました。継続は力なりということです。

#### ○教育庁スポーツ健康課職員

青森県の成人における週1回以上のスポーツ実施率は、着実に増加しているものの、全国平均を下

回っています。全国平均が平成 29 年度で 51.5%であるのに対し、本県が平成 30 年度に調査した結果では 41.2%と、全国平均を下回っています。

そのため、県では「青森県スポーツ推進計画」を策定し、県民が年間を通して、継続的にスポーツができる環境を充実させるための取組を行っています。特に働き盛り世代、家事育児等で忙しい世代の運動する時間が少なくなっているため、取組の 1 つに「総合型地域スポーツクラブの育成・推進」があります。

皆さんは「総合型地域スポーツクラブ」を分かりますか？スポーツ科学科の 2・3 年生はたぶんご存じだと思いますが、このクラブは「多種目」「多世代」「多志向」という特徴があり、お話のあった運動施設の利用やスポーツ体験など、地域のみinnでスポーツを楽しむことが期待できます。

また、ポイント制度については、現在、つがる市と三戸町のクラブで、ポイントを活用した取組を行っています。どちらのクラブでも活動に応じてポイントがもらえ、一定のポイントに達したり、年間を通して 1 番多くポイントが貯まった人に景品が贈呈されます。

また、スポーツ庁でも、携帯電話のアプリを使って登録し、一定の歩数（1000 歩）を歩くことでポイントがもらえ、様々なクーポンと交換できる「FUN+WALK」プロジェクトを実施しています。

そのほか県では、「短命県返上」を目指し、弘前大学、イオンと連携し、ウォーキングの歩数に応じて健康ポイントを貯める取組も行っています。獲得したポイントは電子マネー「WAON」に交換できます。

このように、県内でもいろんな形でポイント制度は導入されていますが、提案にあった「県内のあらゆる店舗で利用できる」制度はまだ実現していません。実現に向けて、多くの県民の理解と協力が必要ですし、何よりも多くの県民がスポーツに親しむことが大切です。県では、今後もより多くの県民がスポーツ活動に参加し、スポーツを通じて健康増進していけるように、根城君の提案も参考にし、いろいろな取組を行っていきたいと思います。

## ○健康福祉部がん・生活習慣病対策課職員

次に、塩分測定に関してですが、まず、県民の平均寿命は、知事からもお話があったとおり、全国最下位が長年続いています。死因はがん、心筋梗塞などの心疾患、脳卒中などの脳血管疾患という、いわゆる「三大生活習慣病」が多くなっています。悪い食習慣や運動不足などが原因なので、健康に良くない生活習慣を改めれば、青森県の平均寿命は確実に延びると考えています。

県民の食塩摂取量もよくない状況なので、塩分について意識してもらうために、県では御提案にもあった塩分測定器を活用した事業を実施しています。これは、県内の飲食店のラーメンのスープやそば・うどんの汁の塩分濃度を測って、スープや汁を飲み過ぎないように県民に促すとともに、飲食店の方には、だしなどをうまく活用した、薄味でおいしいスープや汁の提供を促す内容になっています。

昨年度から県内 101 店舗の協力で実施しており、先日新聞報道もされましたが、県内の飲食店の麺類のスープは、8 割が濃いめという結果でした。

食品中の塩分を確認する方法としては、御提案の塩分測定器もあると思いますが、加工食品では、栄養成分表示が書かれていますので、まずはそれを見てしっかりチェックしていただき、すぐにできる事から少しずつ変えていければと考えています。まさに「今を変えれば!未来は変わる!!」で頑張っていきましょう。



## ○知事

「無意識の減塩」は、食品そのものの含有塩分量を減らそうというのですが、イギリスが高血圧や心筋梗塞を減少させた要因を調査したら、国策としてパンの塩分を減らすことにより、自分で頑張らなくても無意識のうちに減らしたということを知って、それを国に提案しました。2020年からは食塩の表示が新たに必須項目となることから、食品業界にも働きかけ取り組んでいくという方向性になってきました。このように、減塩もしっかり進めています。



あと、今日どうしても皆さんに見せたいものがあります。これはタバコを吸っていない人と吸っている人の肺です。吸っている人の肺はドロドロと溶けてきます。怖いですよ。我々は無煙世代という一切タバコを吸わない世代を作ろうと頑張っています。

また、健康寿命のことも少しお話ししますと、男性は最下位だったのがここまで伸びてきました。女性は全国20位台と、もっと伸びています。健康づくりというのは、しつこいくらい言い続けることが大切です。

## ○司会

最後に、知事よりご感想をいただきたいと思います。

## ○知事

今日は、一言で言えば、楽しかった。そして頼もしかった。それぞれの自分の未来に向かって前に進んでいこうという気持ちが伝わりました。青森県の課題もしっかり把握してくれていて、一緒にやっっていこうという気持ちがとても嬉しかったです。先生方も生徒さんたちが前向きに明るく元気に成長するようにしてくれていて、いい学校だなと思いました。感謝いたします。

今日はとてもいい時間、未来に対する希望を頂きました。本当にありがとう。

